

トルコギキョウ技術情報(1月下旬から2月中旬の管理)

平成29年1月 安足農業振興事務所

○今後の管理のポイント

- ・ 1番花：曇雨天日（特に雪）におけるストレスの回避
- ・ 2番花：整枝作業、灌水管理

1 1番花のストレス回避

1月下旬から2月にかけては冬型の気圧配置が崩れ、曇雨天日が多くなります。また寒気の入り次第では、雪になることがあります。

曇雨天日では気温は上がりにくく、地温は下がりやすくなるため、トルコギキョウはストレスを受け、特に根が受けるストレスは非常に大きいです。

根へのストレス



ブラスチングの発生



2月下旬以降の出荷が遅れる

根へのストレスはブラスチングの発生を招き、この時期にブラスチングが発生すると、2月下旬以降の需要期に出荷が遅れるため、曇雨天日への対応が必要となってきます。

【曇雨天日の対策】

曇雨天日への対応策は、「どの程度の期間」曇雨天日が続くかで判断します。

①曇雨天日が1日の場合：

葉面散布の実施（ホストップ750倍、ペンタキープ5,000倍、鉄力あくあ（F14）5,000倍）

②曇雨天日が2日以上の場合：

①に加え、カーテンを開けて暖房機運転（温度25℃）で、地温の確保

2 2番花の整枝作業

年明けに収穫した品種では整枝に入る時期がこれまでとは異なり、2番花の芽が3節程度になったら、整枝作業を始めます。

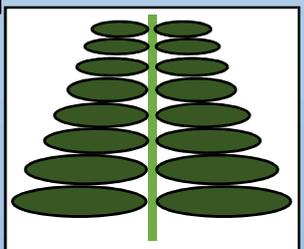
12月の冬至を過ぎると、徐々に日長は長くなり、2月3日の節分を過ぎると日射の強さを感じるため、整枝作業を早くし草勢及び品質の向上を図ります。

3 2番花の灌水管理

2月10日頃から2番花の灌水が始まります。2番花の灌水には大きく分けて①草勢を強くする灌水と②花芽をつける灌水に分かれます。

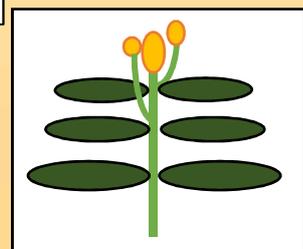
①草勢をつける灌水

・ 灌水の目安は草丈40cm程度、節数8節程度。



②花芽をつける灌水

・ 灌水の目安は1次及び2次側枝の第1小花が見え始める頃。



①の管理は草勢をつけたい早生品種（一番星、ネイルピーチなど）や中早生品種（渚、ボレロホワイトなど）で行い、中生品種（グラナスライトピンクなど）では行わない（中生品種で①の管理を行うと草勢が強くなり、過ぎ出荷が遅れる）。

②の管理は全ての品種で行う。

3月以降の灌水管理は異なるので注意する。